

予防接種スケジュール

大切な子どもをVPD(ワクチンで防げる病気)から守るためには、接種できる時期になったらできるだけベストのタイミングで、忘れずに予防接種を受けることが重要です。このスケジュールはNPO法人 VPDを知って、子どもを守るの会によるもっとも早期に免疫をつけるための提案です。お子さまの予防接種に関しては、地域ごとの接種方法やVPDの流行状況に応じて、かかりつけ医と相談のうえスケジュールを立てましょう。

ワクチン名	接種済み ☑	0歳	1か月	2か月	3か月	4か月	5か月	6か月	7か月	8か月	9か月	10か月	11か月	1歳	1か月	2か月	3か月	4か月	5か月	6か月	7か月	8か月	9か月	10か月	11か月	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	(満年齢)
mRNAワクチン 新型コロナ 臨時	☐☐☐	接種スケジュールは変更になることがあります。事前に最新情報をご確認ください。													1回目の通常3週間後に2回目、2回目の8週間後に3回目を接種。																	
不活化ワクチン B型肝炎 (母子感染予防を除く) 定期	☐☐☐	①→②→			③→			0歳のうちに3回接種が必要。3回目は2回目から4-5か月の間隔をあけて受けます。1歳以上でも未接種の場合は、できるだけ早く受けることをおすすめします。(任意接種)													通常3週間隔で2回(初回接種)。前回の接種後3か月以上あけて追加接種。											
生ワクチン ロタウイルス (飲むワクチン) 定期	1価 ☐☐ 5価 ☐☐☐	①→②→③→			ロタウイルスワクチンには、1価ワクチンと5価ワクチンがあります。遅くとも生後14週6日までに接種を開始し、それぞれの必要接種回数を受けます。																											
不活化ワクチン ヒブ 定期	☐☐☐☐	①→②→③→			ロタウイルス・ヒブ・小児用肺炎球菌・四種混合の必要接種回数を早期に完了するには、同時接種で受けることが重要です。													百日せきの感染予防の目的で三種混合ワクチンを1回受けます。(任意接種) WHOもこの時期の追加接種を推奨しています。			二種混合(DT)：11歳で追加接種(接種対象11-12歳)											
不活化ワクチン 小児用肺炎球菌 定期	☐☐☐☐	①→②→③→			百日せきの感染予防の目的で三種混合ワクチンを1回受けます。(任意接種) WHOもこの時期の追加接種を推奨しています。													二種混合(DT)：11歳で追加接種(接種対象11-12歳)														
不活化ワクチン 四種混合(DPT-IPV) 三種混合・ポリオ 定期	☐☐☐☐	①→②→③→			百日せきの感染予防の目的で三種混合ワクチンを1回受けます。(任意接種) WHOもこの時期の追加接種を推奨しています。													二種混合(DT)：11歳で追加接種(接種対象11-12歳)														
生ワクチン BCG 定期	☐	①→													1歳の誕生日が来たら同時接種で受けてみましょう。ヒブ・小児用肺炎球菌・四種混合・MR・水痘・おたふくかぜの6本を同時接種で受けることもできます。			海外では4歳以上でポリオワクチンを受けるのが一般的です。(任意接種)			海外では三種混合ワクチンを受けるのが一般的です。(任意接種)											
生ワクチン MR (麻しん風しん混合) 定期	☐☐	①→													海外では4歳以上でポリオワクチンを受けるのが一般的です。(任意接種)			海外では三種混合ワクチンを受けるのが一般的です。(任意接種)			幼稚園、保育園の年長の4月～6月がおすすめ											
生ワクチン 水痘 (みずぼうそう) 定期	☐☐	①→													海外では4歳以上でポリオワクチンを受けるのが一般的です。(任意接種)			海外では三種混合ワクチンを受けるのが一般的です。(任意接種)			幼稚園、保育園の年長の4月～6月がおすすめ											
生ワクチン おたふくかぜ 任意	☐☐	①→													海外では4歳以上でポリオワクチンを受けるのが一般的です。(任意接種)			海外では三種混合ワクチンを受けるのが一般的です。(任意接種)			幼稚園、保育園の年長の4月～6月がおすすめ											
不活化ワクチン 日本脳炎 定期	☐☐☐☐	標準的には3歳から接種しますが、生後6か月から受けられます。													①②③→			④														
不活化ワクチン インフルエンザ 任意	毎秋	毎年、10月から11月ごろに接種しましょう。													9歳で追加接種(接種対象9-12歳)																	
不活化ワクチン HPV(2価、4価、9価) (ヒトパピローマウイルス) 定期	☐☐☐	男子は4価ワクチンを受けられます。(任意接種)													9価ワクチンの場合、初回接種が15歳未満なら2回又は3回接種、15歳以上なら3回接種。			小学校6年生になったら受けましょう。(定期接種の対象：小6から高1の女子)														
不活化ワクチン 髄膜炎菌 任意	☐	2歳から受けられます。海外留学や寮生活をする人などは接種を推奨しています。																														
渡航ワクチン	☐	海外渡航の際には、上記のほか、黄熱、A型肝炎、狂犬病などワクチン接種が必要な場合があります。渡航が決まったら、なるべく早くトラベルクリニック等で予防接種の相談をしましょう。																														

mRNAワクチン **臨時** 無料(全額公費負担)。 臨時の予防接種の対象年齢 ↔ おすすめ接種時期(数字は接種回数) (※) 添付文書に記載はないが、接種を推奨
不活化ワクチン **定期** 定められた期間内で受ける場合は原則として無料(公費負担)。 定期の予防接種の対象年齢 ↔ 添付文書に記載のないおすすめ接種時期
生ワクチン **任意** 多くは有料(自己負担)。自治体によっては公費助成があります。任意接種ワクチンの必要性は定期接種ワクチンと変わりません。 任意接種の接種できる年齢 ●異なる種類の注射の生ワクチン同士の接種間隔は最短で4週間です(4週間後の同じ曜日から接種可)。

同時接種: 同時に複数のワクチンを接種することができます。安全性は単独でワクチンを接種した場合と変わりません。国や日本小児科学会も乳幼児の接種部位として太もも(大腿前外側部)も推奨しています。詳しくはかかりつけ医にご相談ください。

詳しい情報は <https://www.know-vpd.jp/> VPD 検索